

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和元年9月5日	評価結果市町村受理日	令和元年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JievsvoCd=2190103743-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和元年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居後も『その人らしい暮らし』が継続できるように、ご本人やご家族の話をじっくり聞きながら、職員間で共有し支援しています。発揮できる力は発揮して頂き、できない所はさり気なく支援することで、ご利用者の尊厳を傷つけないように配慮しています。ご利用者様が安心してのんびり過ごせるような空間づくりや個別に対応することで穏やかに過ごせる雰囲気作りに配慮し、季節が感じられるよう花を飾ったり、行事を取り入れています。健康面では訪問診療、訪問看護、訪問歯科と連携を図り、ご本人、ご家族が安心できる体制を整えています。ご本人様の希望があれば看取りまで実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は、「その人らしい人生をそっとサポート」することを念頭に置き、日々、利用者の立場に立ったサービス提供に努めている。事業所は、周辺に大型スーパーマーケットやドラッグストアのある住宅街にあり、地域の行事に利用者と共に参加し、役割を担いながら住民と交流を図っている。職員は、利用者の残存機能を活かしながら、一人ひとりが可能な限り自立した生活を送れるよう支援している。また、意欲的に様々な研修に参加し、新しい知識や技術を職員間で共有しながら、利用者へのサービス向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットで作った「自分らしく生きる」を理念とし、ご利用者の生き方を尊重するよう、日頃から意識して実践している。	法人理念を基に、「自分らしく生きる」を支えることを事業所独自の理念として、事務室に掲示している。管理者及び職員は、日々のケアを振り返りながら、利用者主体の支援に努め、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、530運動やみまもり隊に参加している。昨年は、文化祭にご利用者の作品など出展させて頂いた。散歩、スーパー、喫茶店などへ出かけ地域の方と挨拶を交わしたり、ご利用者も会話に加わるなどして交流している。	自治会に加入し、利用者と共にゴミゼロ運動や文化祭に参加したり、小学校の「みまもり隊」として、役割を果たすなど、地域の一員としての付き合いができています。事業所の餅つき大会では、地域住民の協力を得るなど、双方で交流の機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と散歩や買い物など近所に出向き、日々の生活ぶりで認知症の方の理解や関わり方を知ってもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開き、事業所の状況や取り組みを報告している。その時々話題やひやりはつについてのアドバイスや質問を検討し、サービスに繋げている。	運営推進会議は、事業所や認知症への理解を得られるよう、避難訓練やその他の行事に合わせて開催している。行政、民生委員、家族、利用者代表が参加し、事業報告やヒヤリハットについて説明し、意見交換しながら改善に繋げ、サービスの向上につなげている。	ここ数年、運営推進会議に自治会長等地域からの出席者が得られていない。運営推進会議への参加を積極的に依頼し、地域住民との交流をさらに深められるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や介護保険の加算についてなど質問をしている。また、困り事については地域包括に相談し、助言を頂いている。	行政とは事故報告や困難事例、介護保険について相談し、空き情報を報告している。行政主催の研修会や連絡会議にも参加し、そこで得た学びや助言を利用者サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会を開いている。3ヶ月に1度、『身体拘束0』にしよう検討会議を開き、個別の拘束の可能性とそれを回避するための対策を話し合っている。	管理者と職員は、身体拘束ゼロへの意識が高い。研修や日々のケアで具体的事例を挙げ、職員間で意見交換しながらケアの向上につなげている。利用者一人ひとりの思いを全体で共有し、優しく寄り添いながら拘束ゼロの支援に努めている。	身体拘束について、委員会や勉強会で学んでいる。利用者一人ひとりの状態を把握し、職員の勤務体制や利用者の生活環境等、様々な角度から、ヒヤリハットが起こる要因を分析し、改善につなげていく取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主体で年2回の勉強会を設けている。また、全職員に対し、虐待について自身と他職員についての聞き取りを一人ひとり行い、虐待につながる前に解決できるよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行って皆で学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、法人代表と管理者が立ち会い、十分説明を行っている。また、ご利用者やご家族の不安や疑問点についてはその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居後1ヶ月後、年1回のアンケートや来設時に意見や要望を聞きカンファレンスや施設会議の時に伝え、改善策など話し合っている。	家族には、毎月「彩り通信」とサービス提供報告書を郵送し、利用者の健康・生活・支援状況を伝え、家族が本人の様子が分かるよう工夫している。来所困難な家族には、電話で要望を聞いている。また、家族が意見や要望を表出できる方法を現在、検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや施設会議で意見や提案を聞いたり日頃も相談に乗っている。	管理者は、職員と共に介護現場に入り、職員が意見や相談を気兼ねなく言えるよう、より良い関係作りに努めている。また、職員同士は日々、研鑽しあえる職場環境の中で、質の高い支援を目指している。職員定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回昇給がある。各担当委員を受け持ち、代表者が評価を行い、各自のモチベーションにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアシートに基づいて、管理者と職員が相談して研修先など相談し、社外研修にも行けるよう勤務等相談に乗っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、社員旅行などを通じ、交流できる機会を設けている。外部の同業者とは交流する機会が作れていないため、今後交流の場を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、困っていることや不安なこと、要望をお聞きしている。特に入居直後では、ご本人が安心できるようご家族、職員間で情報を共有し、寄り添うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より困っていることや不安なこと、要望をお聞きしている。居室の準備から職員も関わり、良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談を必ず行い、まず必要な支援を最優先に行っている。医療面であれば往診医に繋げ、生活面ならばご本人の意向を確認しつつ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と職員が力をあわせ、感謝しながら良い関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を見極めながら、ご家族が話しやすい雰囲気作りに配慮し、ご家族と一緒にご本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の協力で外出や訪問をして頂けている。また、馴染みの人や場所について会話の中に取り入れている。	家族、親戚、友人の訪問が多く、訪問者が安心して、利用者として過ごせるよう支援している。利用者の希望を聞き、車で思い出の場所をドライブするなど外出を楽しんでもらえるよう工夫している。家族の協力により個々の希望への対応ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し暮らしを楽しめるように支援し利用者が孤立しないよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から思いをくみとり、他職員とも確認しながらケアにつなげ、できる限り希望に添えるよう努力しているが、困難な場合はご本人の気持ちに沿いながら検討している。	入居前のアセスメントから、利用者の思いや意向を把握している。トイレや入浴介助、夜間支援の時などの個別ケアの際に、利用者の思いや意向について、新たな気づきがあった場合も、職員間で共有し、利用者一人ひとりに応じた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネ、利用していた事業所、ご利用者との会話の中からこれまでの経過等の情報を尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の把握ができるよう、毎日個人記録に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の状態に合ったケアについて、ご本人やご家族と話し合い、また訪看や主治医などからの意見を参考にしながら介護計画の見直しをしている。	ケアマネジャーを中心に、電話や面談による家族の思いや希望を聞き、ケアに反映させている。日々のケア情報、医師・訪問看護師からの意見や助言、会議やカンファレンスで検討した内容などを活かし、介護計画の作成や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日の個人記録に残し、職員間で情報を共有しながら介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズは職員間で共有し、その時にできることのアイディアを出し合って柔軟な対応ができるようチームで取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や広報、新聞などから情報を見つけ、ご利用者と一緒に取り組んで参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時には、かかりつけ医に様子を伝え、ご本人やご家族の希望を聞きながら適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時に事業所の方針と協力医について説明し、利用者と家族は、協力医をかかりつけ医として選択している。協力医は、月2回の往診があり、必要時には、24時間体制で適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に様子を伝えている。また何かあれば24時間いつでも電話で相談ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医には情報提供をお願いし、入院先との連携に努めている。入院先にはこまめに足を運び、病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、方針を立ててもらっている。状態が変わる都度、事業所でできることを説明し、ご家族には方針を見直してもらっている。	契約時に重度化や終末期の対応について、事業所の方針を説明し、本人と家族の意向を確認している。重度化した場合や終末期には、再度、家族と話し合いを重ねながら方針を決定し、適切に対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会は行っている。実際は未経験なので、訓練が行えるとよい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署立ち会いで訓練を行っている。また年に2回ずつ火災、水害、地震の訓練を行っている。	年2回昼夜を想定し、防災訓練を実施している。火災、水害、地震時の避難場所・避難方法など、近隣住民と連絡をとりながら取り組んでいる。非常用備蓄を完備し、定期的に点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その人に合った声掛けを行っている。特に排泄着替え入浴時には気をつけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを損なわない丁寧な対応と、声のトーンにも配慮しながら優しく穏やかな声かけを行っている。利用者も落ち着いており、笑顔が多くみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人に合わせた方法で自己決定がしやすいように働きかけている。入浴などのできるかぎり時間などは希望を聞き自己決定してもらえるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方を体調に合わせ、一人ひとりのペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の個々に合った食事形態で提供している。ご利用者の苦手なものは取り替えている。一人ひとりの力に合わせて一緒に買い物、食事の準備片付けを行っている。	食事は、旬の野菜を多く取り入れ、利用者の状態に応じた形態で提供している。利用者も、食事の準備や片付けなど、出来る人が、できる作業に関わっている。職員も利用者のテーブルに同席し、食事の時間を楽しめるよう雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量を記録し、その方の状態に合わせた支援ができるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無理のない口腔ケアができるように支援している。必要な方は訪問歯科を利用し、助言を受け支援に繋げている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人からの訴えのみならず時間をみて必要な方は誘導し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけと誘導を行いながら、排泄の自立を継続できるよう努めている。夜間もパッドを活用するが、出来る限り、トイレでの排泄ができるよう支援に努めている。業者の協力を得て、適切な排泄用品についての職員研修を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に良い食事作り、体操、乳酸菌飲料、オリゴ糖を使用して予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日準備し、ご利用者の希望を聞いている。	入浴は週2回を基準にしているが、利用者が希望した際、いつでも入れるよう毎日準備している。広く明るい浴室で、利用者はゆったりと入浴を楽しむことができる。入浴リフトの活用で、利用者のリラックス効果が上がり、職員の腰痛予防にもつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休息されている。就寝時間も特に決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書を読み理解に努めている。服薬支援は確実にできるように他のスタッフとともに確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者に応じて散歩、買い物、喫茶店、習字など、入居前からの楽しみが続けられるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は散歩、買い物、喫茶店、季節毎にはお花見など外出している。またご家族やご友人と出かけられる事もあり、柔軟に対応できるよう心がけている。	利用者の健康状態や意向、天候に合わせ、散歩や外気浴などを行っている。近隣にスーパーマーケット、薬局などがあり、日々の散歩に買い物を組み入れながら、外出を楽しめるように工夫している。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお小遣いを預かっており、買い物先ではご利用者の力に応じた支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自由に電話している。そうでない方は事業所の電話を使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では季節の花、ご利用者手作りの壁絵を飾っている。毎日の掃除で居心地のよい共用空間作りをしている。	共用の間は広く、車椅子利用者も安全に移動でき、大きな窓から景色を眺め、季節を感じることができる。空気清浄機も設置されている。壁には季節の手作り作品や行事の際の写真などを飾り、利用者が思い出を楽しめるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席で他者とおしゃべりしたり、またお好きな椅子に座ってテレビや窓の外を見ていたりと思思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使いなれたもの、好みに合わせ居室づくりをしている。居室内にはご利用者所有の持ち込みもあるので安心して過ごされている。	窓も大きく、明るい部屋である。利用者の希望に応じて、使い慣れた整理筆筒や小物などを持ち込み、好みに配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレに手すりがあり、車椅子も移動できる広さがある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和元年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和元年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの理念「自由に笑って過ごしましょう」が実現できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり散歩や買い物時に地域の方々と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と散歩や買い物など近所に出向き、日々の生活ぶりで認知症の方の理解や関わり方を知ってもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開き、事業所の状況や取り組みを報告している。その時々話題やひやりはつとについてのアドバイスや質問を検討し、サービスに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告や介護保険の加算についてなど質問をしている。また、困り事については地域包括支援に相談し、助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて学び、何が身体拘束となる行為かを理解して、身体拘束をしないケアを意識して支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主体で年2回の勉強会を設けている。また、全職員に対し、虐待について自身と他職員についての聞き取りを一人ひとり行い、虐待につながる前に解決できるよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行って皆で学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、法人代表と管理者が立ち会い、十分説明を行っている。また、ご利用者やご家族の不安や疑問点についてはその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人様やご家族の意見や要望がある時にはお聞きして申し送りをし共有している。電話や面会時に要望や確認に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや施設会議で意見や提案を聞いたり日頃も相談にのっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回昇給がある。各担当委員を受け持ち、代表者が評価を行い、各自のモチベーションにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアシートに基づいて、管理者と職員が相談して研修先など相談し、社外研修にも行けるよう勤務等相談に乗っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、社員旅行などを通じ、交流できる機会を設けている。外部の同業者とは交流する機会が作れていないため、今後交流の場を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、困っていることや不安なこと、要望をお聞きしている。特に入居直後では、ご本人が安心できるようご家族、職員間で情報を共有し、寄り添うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より困っていることや不安なこと、要望をお聞きしている。居室の準備から職員も関わり、良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談を必ず行い、まず必要な支援を最優先に行っている。医療面であれば往診医に繋げ、生活面ならばご本人の意向を確認しつつ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは一緒に行っている。時には業務に追われてしまうときがあるが、意識して一緒に過ごす時間を作り、話を聴いて関わりを持つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様の絆を大切にしつつ、共に本人様を支えていけるよう努めている。また、面会に来やすい雰囲気作りに心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出かけやすいようにしたり、面会にみえた際には、次も来やすいよう配慮し、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、時にスタッフが間に入ったりしながら利用者同士が関わりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向の把握に努めている。意思の主張が難しい方は本人様の事を考えて本人本位になるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネ、利用していた事業所、ご利用者との会話の中からこれまでの経過等の情報を尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の把握ができるよう、毎日個人記録に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況の変化や意思・意見を反映しつつ、意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日の個人記録に残し、職員間で情報を共有しながら介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズは職員間で共有し、その時にできることのアイディアを出し合って柔軟な対応ができるようチームで取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や広報、新聞などから情報を見つけ、ご利用者と一緒に取り組み参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時には、かかりつけ医に様子を伝え、ご本人やご家族の希望を聞きながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に気づいたことや変化等を伝えて相談している。必要な時は受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医には情報提供をお願いし、入院先との連携に努めている。入院先にはこまめに足を運び、病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、方針を立ててもらっている。状態が変わる都度、事業所でできることを説明し、ご家族には方針を見直してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会は行っている。実際は未経験なので、訓練が行えるとよい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署立ち会いで訓練を行っている。また年に2回ずつ火災、水害、地震の訓練を行っている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しつつ、プライバシーを損なわないように言葉かけには気をつけるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どっちにされますか？等、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるように見守りつつ関わりをもちつつ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意思や好みを考慮しつつ、身だしなみを整えたり、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来ることは一緒に行っている。お好きな物や一人ひとりに合わせて食べやすい形状にして食事を楽しむことが出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態を見つつ声掛けをしたり、介助したりして必要な食事や水分摂取がとれるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアの支援をしている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや時間をみて声掛けし、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料や果物、食物繊維など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望をお聞きし、個々に沿った支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お体の状況に合わせて日中も少し休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬情報で確認している。誤薬や飲み忘れがないよう十分気をつけている。また、症状の変化についても確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者に合った役割や楽しみを持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントや季節の花を見に行ったりなどご本人の希望を聞きつつ外出できるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望に応じてお金が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自由に電話している。電話の取り次ぎや年賀状等のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく刺激がないよう配慮し、季節が感じられるような飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とおしゃべりを楽しんだり、雑誌を見たりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を配置し、居心地良く居室で過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に迷わないよう表示をしたり、リビングでは混乱が起きないように、席を固定している。		